

燈「は前と其の端さなるを要おさへ」
すまへ」

清「神部を御勤つ平山替の中勤」つ神部手當を云はれ共おまひを考
じたまへぬ」

燈「おまひを考じたまへぬ」同じ申す御勤を御勤じつと申し地を
燈「おまひを考じたまへぬ」おまひを御勤じつと申し地を

半「御心の替つ御勤」つおまひを」
燈「御勤じつと申しおまひを」

おまひを御勤じつと申しおまひを」
おまひを御勤じつと申しおまひを」

おまひを御勤じつと申しおまひを」
おまひを御勤じつと申しおまひを」

おまひを御勤じつと申しおまひを」
おまひを御勤じつと申しおまひを」

財團法人協調會大阪支所

青「私の組合員の爲めだから私は云ふ権利があります、解雇の申渡
しをされた時に云つた手當より實際は毎時も少ないと云ふ事て
す」

松「馬鹿な事を云ふな、そんな掛引はしない」
青「今少し道徳的にやつて下さい男らしく人らしく」

松「梅部願により解雇の中に幾位貰つた」
梅「未だ貰ひませぬ」

松「直ぐに取りに来て呉れ」
青「解雇と同時に何故手當の額が云へませぬ」

松「直ぐに云へぬ部長さんに後で聞いて呉れ」
青「大したこと遣ると云つて少しかやらないなど横着なことばかり
して」

松「一寸考へると五年も居たから澤山貰へると思ふが二年以上も缺
勤があつては又組合員々々と云ふが御前達の方で區別して